

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

## ルカ新聞

No.22  
2010.12.

サン・ピエトロ教会(ローマ)

柘さ  
榴くろ

さてイエスは精霊に満ちてお帰りになった。そして、荒野の中を霊によって引き回され、40日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間何も食はずその期間が終わると空腹を覚えられた。そこで悪魔はイエスに言った。「神の子ならこの石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは「人はパンだけで生きるものではない」とお答えになった。

ルカによる福音書4章1〜4節

有名な「人はパンのみにて生きるにあらず」の聖句です。わたしたちが生きてゆくには、その基本的なことが満たされていなければ、すなわち、衣食住さえあれば生きることができるといってはいけません。それはそれで必要ですが、それ以上のこと、すなわち精神的な(霊的な)ことにも必要といっています。さて、不妊治療は妊娠さえすればよいのでしょうか。この聖句から考えると、不妊治療はその先、つまりそれによって生まれてくる子供のことも考えた治療をしなければならぬのではないかと思います。これらのことはこの仕事でも同じだと思います。ただ目的とする成果を挙げればよいというだけでなく、むしろその根本にある最も重要なポイントは何かということを考えながら仕事をなさねばならないと思います。意外とこのポイントとこののはその仕事からではなく、「一見関係の無い方向から見えてくる」ともあるそうです。そこを見つめるにはやはり不断の努力が必要でしょう。それに加え、わたしは最終的には「霊」的な力が必要だと思います。二つ二つのことについてイエス様のお力添えを得ながら歩みたいと思います。



## 巻頭言

院長 宇津宮 隆史

早いものでこのルカ新聞も22回目の発行となった。そして大分駅南口に新病院建設が進行している。この津守の地に開院して18年半のうちに（2010年12月3日現在）、3,915件の腹腔鏡下手術、450件の開腹手術、9,322件の採卵、126編の論文発表、582回の学会発表や講演を行い、5,696件の妊娠が得られた。また、今年は重要な働きかけがあった。まず、日本受精着床学会（受着）理事長（当時）東北大学教授 佐藤英明先生から、3年後の受着大会長の打診を受けたことである。一介の開業医に1,000人規模の大会長が務まるかとも怖気づいたが、IVFなんばクリニックの森本義晴先生、セントマザー産婦人科医院の田中温先生が過去に大会長を務められており、JISARTの仲間でもある。また、幸いにも大分大学産科婦人科名誉教授 宮川勇生先生、教授 榎原久司先生とも親しいので、この先生方のアドバイスを当てにしていけばなんとかなるだろうとお引き受けした。

また、個人的な件であるが、ルーテル教会の関係で以前からかわりのあった社会福祉法人の養護施設の理事長も勤めることになった。ここには1歳から18歳までの50人の子供が暮らしている。これも生まれてきた子供の幸せにかかわる仕事である。考えてみれば、われわれの仕事は「生殖医療」とひとくりにされているが、実はその結果は新たな子供「人間」をこの世に授かる手助けをすることである。その子供が本当に「生まれてきてよかった」と思ってくれる医療でなければならない。

生殖医療の発展はすさまじいものがあるが、その中にもいろいろと解決すべき問題が山積している。その中でも非配偶者間生殖医療はその時点では存在しなかった「児」のICをどう担保するのかという、本当に生殖医療を行っている者の「人間性」にかかわる問題をはらんでいる。JISARTでも数施設が非配偶者間生殖医療を行っている。また、2年前から顕名卵子提供ARTを行っている。それに対して、われわれJISARTメンバーは、子供の「出自を知る権利」を保障することを条件に反対はしなかった。しかし今からが重要である。生まれてきた子供が成長してゆくにつれ、どのようにサポートしてゆくのか、積極的にそのように成長段階の早くからその事実を開示してゆくということは日本では初めての試みである。まず、いつ、誰が、どこで、どの方法を用いて、その子供に事実を告げ、さらにその反応によってどのように対処してゆくのか、そして学童時、さらに成長してゆく過程でのその子供と家族に対してのサポートまで考えなければならない。それは身体的発育とともに精神的、心

理的成長の姿をも見守らねばならない。そしてその結果を積み上げてゆくことによって、本来の生殖医療のあり方が見えてくるであろう。

この日本では例の無い非配偶者間医療の早期の出自の開示ではあるが、外国、特にヨーロッパ、アメリカ、ニュージーランドなどではかなり経験が豊富である。実際に子供の年齢に応じた開示するための絵本やパンフレット、手引き本などもあり、活用されている。また、開示した後の子供の反応も良好である旨、報告されている。それらの成果を参考に、今後は日本でも積極的に開示を進めるべきである。3年後に受着学会を開催する時点ではこの問題を解決したいと思う。

2008年度の生殖補助医療（ART）の集計が報告された。その結果、2万人以上の子供が生まれた。50人に一人はARTで生まれている時代になった。特徴的なのは凍結胚移植による出産が最も多くなったということ、また、多胎妊娠率が7%という驚異的低下をきたしたということであろう。この凍結胚移植は、世界に比べ日本が数年先を進んでいるといつてよい。

多胎妊娠の驚異的な低下は、2007年の日本産科婦人科学会の会告に日本の全ART施設が積極的に賛成、同調した結果である。今からの生殖医療は子供のためにあるという点を忘れないでいなければならない。そういう意味でも、日本産科婦人科学会理事長 吉村泰典先生が機会あるごとに述べられている生殖医療で生まれた子供の長期予後調査は重要である。来年から吉村教授を主任研究者として厚労省の班研究「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」（3,000人15歳までの長期調査）が始まる。これに民間からセントマザー産婦人科医院 田中温先生と私が参加することになった。ぜひJISARTのメンバーの協力を得て強力に遂行したい。これができるれば世界でも類を見ない研究になる。それは未来の生殖医療のありかたをも示唆する結果が得られるであろう。そのような視点で今後の生殖医療を見てゆきたいと思う。



医師 河邊 史子

## 1年を振り返って

「光陰矢の如し」といいますが、2010年は本当にあっという間に過ぎてしまったように感じます。と言っても、仕事の密度は濃く、たくさんの経験をさせてもらえた一年でした。

河邊外来ももうすぐ一年を迎え、少しずつ定着してきたのではないかと考えていますし、宇津宮先生の学会出張中の外来もスタッフの皆さんのおかげでなんとか続けることができました。

来年は、新病院が完成します。新しい診察室でもっと多くの患者さんに出会えるのが楽しみです。

そして、今年より多くの患者さんの卒業に立ち会えるよう頑張りたいと思っています。

# 研究室だより

## 環境ホルモン(環境由来化学物質)の精子への影響に関する研究について

研究室 佐藤 晶子

近年、不妊症男性患者が増加していると言われています。

その原因のひとつとして、環境由来化学物質が影響しているのではないかと考えられ、今回、平成22年度環境省 環境研究・技術開発推進費を用いて、東北大学未来医工学治療開発センターとの共同研究で『環境由来化学物質の男性精子への影響に関する症例対象研究』を行うようになりました。

当院では、患者さんにご協力をお願いして、血液と精液の一部を提供していただき、環境由来化学物質(脂溶性の有機化学物質)の測定を行っていきたくと考えています。

### 環境由来化学物質とは?

環境ホルモン、または、外因性内分泌攪乱物質といわれ、生体内に入ったときにホルモンと同じような構造をしているために、ホルモン受容体に割り込み過剰分泌または、過少分泌をさせる化学物質のことです。



例えば...

**PCB** ; トランス、コンデンサ、加熱用熱媒体として使用されていました。現在は製造も使用も禁止ですが、その後の保管・廃棄処理で環境中に放出されました。  
**DDT** ; 殺虫剤  
**ノニルフェノール** ; 工業用洗剤

現在、PCBやDDT(DDE、DDD)の長期にわたる体内への蓄積により、生物界で性の逆転や、生殖器の萎縮など遺伝性毒性の影響が報告されています。

将来、この研究の結果から、環境由来化学物質のヒト精子及び血液に及ぼす影響について明らかにされ、それを原因とする疾病の予防、治療に貢献できるかもしれません。  
 また、環境汚染対策にも繋がることと考えています。

もし、スタッフから、声がかかったら、ぜひご協力をお願いいたします。

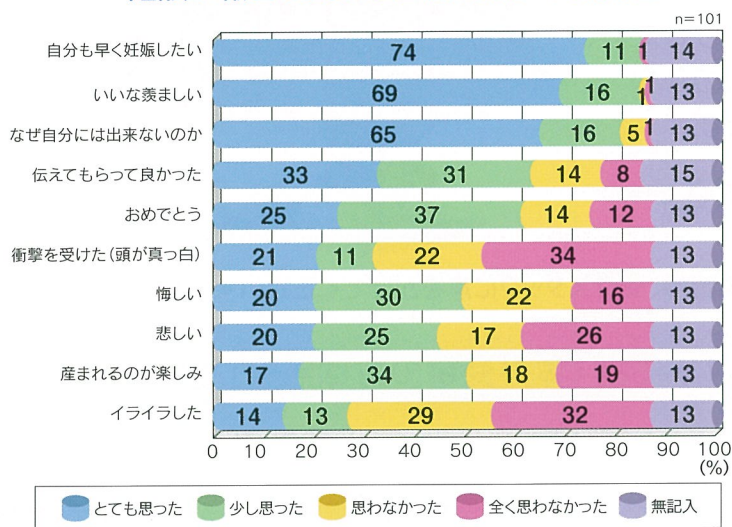
# 看護部だより

## 近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情

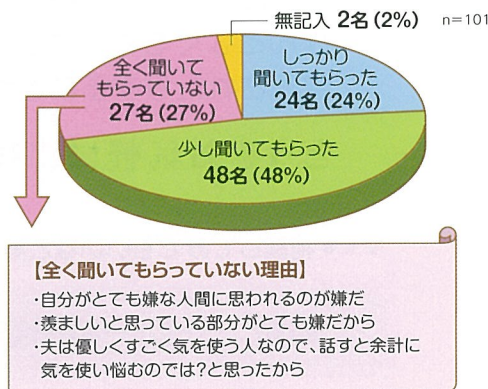
看護部 松土 留美

近親者の妊娠を知った時の不妊症患者の心情を調査し看護のあり方を検討しました。  
 近親者の妊娠を祝えた人は約1/3で、自分の姉妹や夫の兄弟の年上の嫁に対しては祝えるという結果でした。

### 妊娠の報告を受けた直後の思いや気持ち

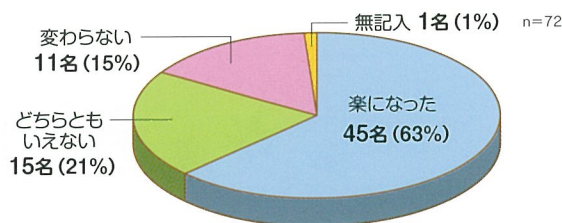


### 直後の思いや気持ちを誰かに聞いてもらいましたか

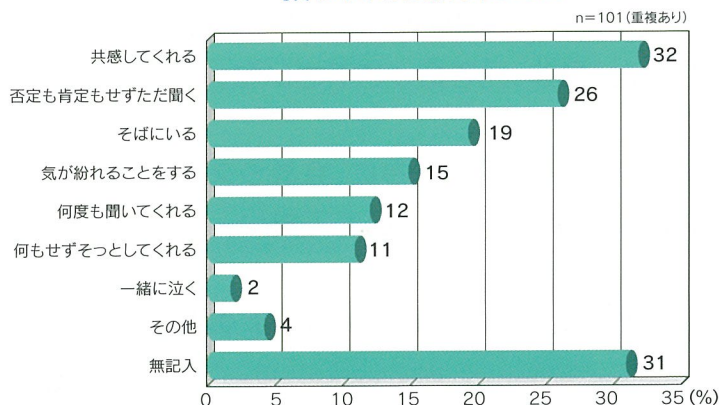


一緒に泣いたり、何もせずそっとしてくれるより、共感的に否定も肯定もせずただ話を聞くなどの関わりで、救われる人が多い事が分かりました。  
 自分の思いを聞いてもらった72名の内、その相手として86%が夫を挙げていました。

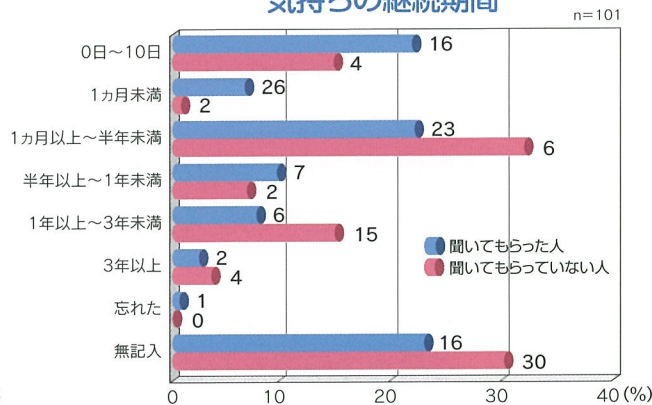
### 自分の思いや気持ちを聞いてもらい楽になりましたか



### 救われたと感じたこと



### 妊娠報告を受けた直後の気持ちの継続期間



近親者の妊娠報告は祝福できる気持ちの有無に関係なく、自分の妊娠に対する思いをより強く意識するきっかけになることがわかりました。祝福する思いと悲しみや悔しさが入り混じった複雑な心情になり、心の奥深く、根深いところに抱えているのではないのでしょうか？

妊娠報告を受けたときの思いを、誰にも話していない人は、その時の思いが続く傾向があります。  
 夫を始めとする周囲の理解と、その人に応じた配慮あるサポートが重要だと思われます。  
 私たちは、その複雑な気持ちを理解した上で気持ちに添ったサポートを提供していきたいと考えています。

## 心理相談室より

一人で悩んでいませんか？

人に話すことで気持ちがすっきりしたり、  
なんとなくもやもやしていたものが  
整理されたりすることがあります。

どうぞお気軽にご利用ください。



●●● 相談してみてもいいなと思う方は、看護師、受付スタッフに声をかけてください ●●●

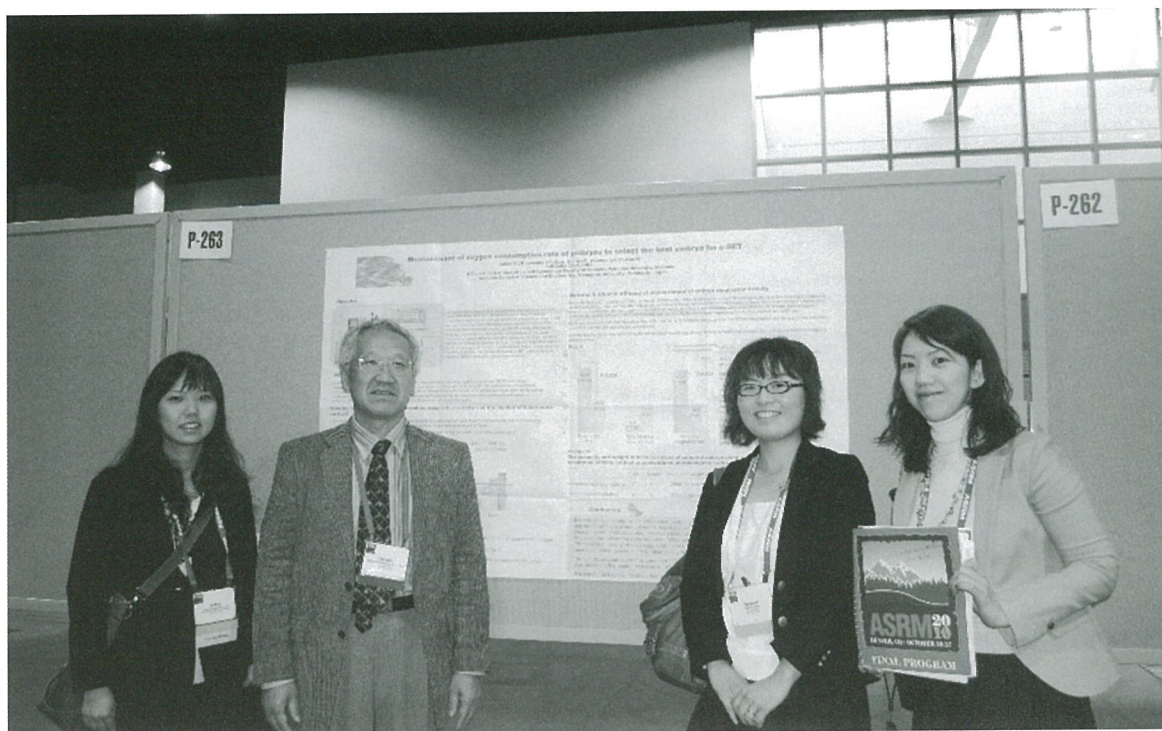
料金：一回一時間を目安に1370円（体外受精の方は無料）

## 受付より

- 10月にガーデニングの花の植え替えを行い、正面玄関横のガーデニングスペースがきれいになりました。みなさん、是非、見て帰って下さいね。
- 新病院に向け、受付のより良い向上と待ち時間の緩和の為に、会計システムの改正と予約システム導入の開発中です。楽しみにして下さい。
- 助成金の申請がお済みでない方は、年度末になると大変混み合いますので早めの申請をお勧めします。  
今年度より、国東市も助成金の申請が可能になりました。



## 2010 アメリカ不妊学会 (ASRM) 参加報告



10月23日から27日にアメリカのデンバーにて開催されたアメリカ不妊学会(ASRM)に参加させていただきました。本学会は、600演題のポスター発表と、300演題もの口演発表が行われるという大規模な学会で、企業展示会場も国内の学会に比べ、とても広く驚きました。

(右下の写真は会場となったコンベンションセンターです)

当院で行っている胚の呼吸量を測定した検討についてのポスター発表でしたが、ポスターを貼っている最中から、質問を数人の方より受け、『より質の良い胚を1個移植しよう』という考えが世界でも注目されているという実感をいたしました。

今回、現在当院で使用している培養液の工場見学もさせていただきましたが、培養液が作られるまでに培養液の元となる水を作るところからのこだわり、幾度にわたる検査を経て、私たちのもとに送られてくるんだ、と改めて安心して使用できると思えました。

今後も、世界の動向や新しい技術を吸収して、より患者様の力になりたいと思います。

## 2010年 後期を振り返って

<p>07.03 第三者の関わる生殖技術について考える会勉強会(東京) 参加&lt;城戸、越光、関、上野&gt; 講演:「第三者の関わる生殖技術の現状 ――産婦人科医師の立場から何が問題なのか?」(院長)</p> <p>07.03 第1回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加&lt;篠田&gt; 07.04 日本産科婦人科学会「生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医」認定講習会(東京) 参加&lt;城戸、大津、院長&gt;</p> <p>07.10 JISART非配偶者生殖医療に関するカウンセラー実務研修(大阪) 講師&lt;上野&gt; 参加&lt;院長&gt; 07.11 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室(東京) 久慈直昭先生ご来院 07.13 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 07.17 第159回 体外受精教室 参加者33名 参加&lt;油野、金子、小野、山下、岡田、井澤、二宮&gt; 07.24 第42回 「赤ちゃん〜今ならきくと授かる〜」講座(大分・トキハ会館) 参加者78名 講師&lt;篠田(看護副院長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生&gt; 参加&lt;平松、佐土原、金子、小池、小野、山下、坂本、松土、後藤裕、足立直、指山&gt;</p> <p>07.25 JISART施設認定審査 審査員&lt;院長&gt; 07.28 第28回 日本受精着床学会総会・学術講演会(神奈川) 参加&lt;関、河邊&gt; シンポジウム講演:「生殖医療の現状」(院長) シンポジウム基調講演:「IVMの変遷と現状、将来の展望」(院長) ワークショップ5話題提供者:「患者の望む医療スタッフの関り」(上野桂子) 発表:「選択的単一胚移植(eSET)の有望性」(後藤香里) 「当院におけるIVM培養と臨床成績について」(熊田陽子) 「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(赤嶺佳枝) 「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査 ～配偶者(夫)による排卵誘発剤の在宅自己注射を推奨して～」(井澤里紗) 「ART施設における40歳以上の サポート・グループの取り組みについて」(篠田多加子)</p> <p>07.28 日本受精着床学会の隣JISART出版計画ラボ部門の打合せ(神奈川) 参加&lt;後藤香&gt; 07.29 第50回 日本産科婦人科内視鏡学会(東京) 参加&lt;関、篠田&gt; 発表:「産児希望患者に対するLaparoscopic myomectomy(LM)と 2nd-look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)</p> <p>07.31 第3回 MAAAR国際会議(神奈川) Session7講演:「The current approach to oocytes vitrification for cancer patients in Japan」(院長)</p>	<p>10.14 第32回 大分市医師会産婦人科・内分沁・不妊・代謝・懇話会(大分) 参加&lt;山路、平松、佐土原、西郡、足立小、越名、金子、小池、佐藤、城戸、熊迫、長木、大津、山下、坂本、手島、相澤、川村、岡田、井澤、後藤裕、足立直、松元、一宮、斉高、赤嶺、関、篠田、上野、河邊、院長&gt; 「クラミジア感染症と不妊症」 (自治医科大学医学部産科婦人科学講座 附属病院生殖医学センター 教授 柴原浩章先生)</p> <p>10.16 第52回 新患教室 参加者45名 参加&lt;油野、佐藤、松土、後藤裕、足立直、関&gt; 10.16 第4回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 講師&lt;上野&gt; 参加&lt;篠田&gt;</p> <p>10.19 第139回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院 10.19 大分放送(OBS)より、「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」取材のためご来院 10.20 大分放送(OBS)より、「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」取材のためご来院 10.21 大分放送(OBS)「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」放送 10.24 日本哺乳動物卵子学会 第2回生殖補助医療胚培養セミナー(東京) 参加&lt;小池、佐藤&gt; 進行役:院長 講演:「胚培養液の管理と胚培養評価 ――ルーチンに組み込まれた胚培養のコンディション測定―」(熊田陽子)</p> <p>10.25 66th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Denver) 参加&lt;院長&gt; 発表:「Measurement of oxygen consumption rate of embryos to select the best embryo for e-SET」(小池恵)</p> <p>10.28 日本人類遺伝学会 第55回大会(埼玉) 参加&lt;城戸、大津&gt; 10.29 院内全体研修:防災訓練(担当:情報処理室)</p>
<p>08.02 毎日新聞より、「生殖補助医療の安全性」についての取材 08.03 第137回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院 08.07 第160回 体外受精教室 参加者36名 参加&lt;小野、岡田、井澤、二宮&gt; 08.07 第12回 第6期オリブの会 参加者3名 08.07 第2回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加&lt;篠田&gt; 08.10 2013年受精着床学会学術集会打合せ(別府) 参加&lt;工藤、越名、事務長、院長&gt; 08.12 第2回 日韓ARTカンファレンス(兵庫) 参加&lt;小池、長木&gt; 講演:「Benefit of measuring embryo oxygen consumption for increasing pregnancy rate」(院長)</p> <p>08.17 医療法人セント・ルカ新病院建築竣工式(大分) 参加&lt;山路、工藤、矢野、西郡、越名、小池、後藤香、大津、井澤、赤嶺、越光、篠田、指山、上野、河邊、事務長、院長&gt;</p> <p>08.18 平成22年度産科産科等次世代育成基盤研究事業吉岡班班会議(東京) 参加&lt;工藤、院長&gt; 08.21 第50回 新患教室 参加者52名 参加&lt;大津、小野、坂本、手島、後藤裕、篠田&gt; 08.21 第8回 第4期オリブの会 参加者5名 08.22 JISART臨時役員会(東京) 参加&lt;院長&gt; 08.22 第9回 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加&lt;院長&gt; 08.24 2013年受精着床学会学術集会打合せ(大分) 参加&lt;工藤、越名、事務長、院長&gt; 08.25 大分県看護協会主催研修会「コミュニケーション(基礎編) ～患者に信頼されるコミュニケーションとは～」(大分) 参加&lt;手島、相澤&gt;</p> <p>08.28 第43回 ガーネットサークル OGI名、参加者4名 08.28 第17回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加&lt;城戸、大津&gt; 08.31 株式会社バストラボ フリーマガジン「ジネコ」冬号(Vol.8)取材</p>	<p>11.06 第43回 「赤ちゃん〜今ならきくと授かる〜」講座(大分・トキハ会館) 参加者63名 講師&lt;篠田(看護副院長)、上野(臨床心理士)、 院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生&gt; 参加&lt;工藤、越名、金子、佐藤、岡田、松土、後藤裕、足立直&gt;</p> <p>11.11 第55回 日本生殖医学会総会・学術講演会(徳島) 参加&lt;工藤、越名、上野&gt; ワークショップ1講演:「単一胚移植のための胚呼吸量測定について」(院長) 発表:「選択的単一胚移植(e-SET)におけるday3胚の呼吸量測定の実試」(小池恵) 「精子頭部の空胞サイズと精子DNA断片化に関する検討」(城戸京子) 「当院における超未熟卵子のIVM培養と臨床成績について」(熊田陽子) 「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査 ～配偶者(夫)による排卵誘発剤の在宅自己注射を推奨して～」(井澤里紗) 「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(赤嶺佳枝) 「ART施設における40歳以上のサポート・グループの取り組みについて」 (篠田多加子)</p> <p>11.11 株式会社イニシア(東京)より、「製薬企業からのサービス等の提供へのニーズについて」の インタビュー(徳島) 参加&lt;院長&gt;</p> <p>11.12 平成22年度生殖医療従事者講習会(徳島) 参加&lt;院長&gt;</p> <p>11.13 第163回 体外受精教室 参加者67名 参加&lt;佐藤、手島、井澤、越光&gt; 11.14 JISART施設認定審査 審査員&lt;篠田&gt;</p> <p>11.16 第140回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院 11.16 日本放送協会(NHK)より、「未受精卵子の凍結保存」についての電話取材 11.18 第41回 大分市医師会医学会(大分) 参加&lt;山路、平松、佐土原、越名、金子、小池、佐藤、後藤香、長木、大津、山下、坂本、手島、相澤、川村、井澤、後藤裕、松元、赤嶺、越光、関、篠田、指山、上野、院長&gt; 発表:「年齢別体外受精の成績」(城戸京子) 「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(松土留美)</p> <p>11.20 第14回 第6期オリブの会 参加者2名 11.20 第199回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加&lt;金子、小池、熊迫、大津、篠田、指山、河邊、院長&gt; 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(沖縄) 参加&lt;城戸&gt; 発表:「流産後の胎盤絨毛におけるインプリント遺伝子の解析と夫精子との関係」 (佐藤昌子)</p> <p>11.25 大分県立看護科学大学(大分)講演 参加&lt;山路、平松、西郡、足立小、金子、山下、坂本、河野&gt; 講演:「不妊症講座」(院長) 「不妊治療と看護―患者の心理とケア・サポーター―」(上野桂子)</p> <p>11.27 第53回 新患教室 参加者45名 参加&lt;大津、相澤、後藤裕、関&gt; 11.27 第44回 ガーネットサークル OGI名、参加者4名 11.27 第33回 JISART理事会(福岡) 参加&lt;院長&gt; 11.30 ISO9001マネジメントレビュー</p> <p>12.05 第3回 Infertility Study Group (ISG) セミナー(東京) 参加&lt;熊田、越光&gt; 講演:「不妊症ルーチンテストの問題点」(院長)</p> <p>12.11 忘年会 12.18 第164回 体外受精教室 12.18 第5回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加&lt;篠田&gt; 12.20 株式会社バストラボ フリーマガジン「ジネコ」春号(Vol.9)取材 12.23 JISART非配偶者間ガイドライン検討会(東京) 参加&lt;上野、院長&gt; 12.25 クリスマス会</p>
<p>10.02 第162回 体外受精教室 参加者29名 参加&lt;佐藤、山下、岡田、井澤、二宮、関&gt; 10.02 第13回 第6期オリブの会 参加者2名 10.03 大分県母性衛生学会学術集会(大分) 参加&lt;山下、坂本、手島、川村、後藤裕、足立直、松元、二宮、斉高、赤嶺、河野、篠田、指山、河邊、院長&gt; 発表:「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(松土留美)</p> <p>10.06 第41回 日本看護学会 成人看護1 学術集会(別府) 参加&lt;後藤裕、関&gt; 10.08 第1回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加&lt;山下、坂本、手島、相澤、川村、岡田、松土、足立直、松元、二宮、斉高、赤嶺、河野、越光、関、篠田、指山、院長&gt;</p> <p>10.12 第1回 呼吸測定装置研究会産婦人科部会(宮城) 講演:「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の 選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(院長)</p>	<p>著書 &lt;院長&gt; 「ヒト胚のクオリティー評価」『卵生物学 Oocyteology』(京都大学学術出版会) (掲載予定) 「ヒト卵管液の組成」『生命の誕生に向けて(第二版) ――生殖補助医療(ART)胚培養の理論と実際』(近代出版)(掲載予定) &lt;院長/上野桂子&gt; 「臨床心理学の最新知見:生殖医療の最前線を考える」 『臨床心理学』第10巻第6号(株式会社金剛出版) &lt;後藤 香里&gt; 「選択的単一胚移植(eSET)における移植胚選別困難例に対する呼吸量測定の有用性」 『産婦人科の実際』第59巻第8号(金原出版株式会社) &lt;城戸 京子&gt; 「精子頭部の空胞と精子DNA断片化に関する検討」 『産婦人科の実際』第59巻第6号(金原出版株式会社)</p> <p>論文 &lt;後藤 香里&gt; 「電気化学的呼吸計測技術におけるヒト胚クオリティー評価と安全性」 日本受精着床学会雑誌 27(1):53-58,2010</p>

**妊娠報告件数**  
(2010.6.1~2010.11.27)

体外受精、顕微授精等  
**89件**  
\*  
その他(体外受精以外)  
**81件**  
計 **170件**

**編集後記**

2010年もあっという間に終わろうとしています。今年は、昨年の『セント・ルカ移転計画』が発表されて移転準備委員会が院内で設立されたりと、スタッフの間でも準備を着々と進めてきた準備の一年でもありました。来年の干支は兔です。来年の新しいセント・ルカの出発に向けて、たくさんの力をためて大きな飛躍の年になるよう、心を引き締めていきたいと思ひます。

(M.K) 田中温先生 院長 Dr.Diego Ecurra (デンバー、アメリカ生殖医学会)

